

私のホテル  
インターン時代

右も左もわからないクアラルンプール。  
休日を利用して観光情報を収集!

インターン中はフロント業務とゲストサービスを担当し、日本人ゲストのケアが中心でした。VIPが宿泊される際は事前に部屋をチェックし、滞在中のお世話もしました。病院へお連れしたこともありましたね。観光についての情報もお客様に質問されるので、月4回の休日には観光や買い物スポットを訪れ、「生きた情報収集」に明け暮っていました。それがお客様から「役に立った」と喜ばれ、うれしく感じたのを記憶しています。



ノホテルホテルのインターン時代、ボランティアの日にピンク色の花を付けてゲストのお迎えをした。フロントスタッフたちと

同じくインターン時代、毎日午後3時に行われていたブリーフィングの後、同僚のスタッフと一緒に



海外で働きたい人へ!  
from Naofumi Uchida

大切なことは経験や英語力ではなく、チャレンジしたいという勇気だと思います。文化や習慣など日本と違うので、壁にぶつかることもあるでしょうが、一つひとつ乗り越えて、海外で働く醍醐味を味わってほしいです。

打田さんが参加したプログラム

株式会社ホスピタリティ  
トラジャルインターンシップ

トラジャルインターンシップで扱うインターンシップ・プログラムは、1年間で65万円。高級ホテル、クルーズなど研修先は多数あり、自分に合った受け入れ先を紹介してもらえる。インターン期間中は、宿泊、食事、おこづかいを提供してくれる受け入れ先がほとんどで、年間の総費用は留学やワーキングホリデーの2分の1から3分の1で済むのが特徴だ。興味のある方は、無料セミナーや個別説明会に参加してみよう!

お問い合わせ  
トラジャルインターンシップ  
☎03-5386-3081 (東京)  
☎06-6578-0202 (大阪トラジャルウエスト)  
www.trajal-internship.jp/  
プログラム一括資料請求 NO. TRJ1999-47A

打田直史さんのHistory

- 21歳 大学在学中にリゾートホテルでアルバイト。レストランのウェーターとして働く。このとき、ホテルマンの夢が現実的なものとなる。
- 23歳 大学卒業後、ホテルに就職。レストランのウェーター職に就く。尊敬するホテルマン(上司)と出会い、ホテルマンとしての働き甲斐を感じ始める。
- 28歳 ホテルを退職し、ワーキングホリデーでオーストラリアへ。数か月間、語学学校で英語を学んだ後、ローカルレストランで働く。ネイティブに囲まれた環境で働いたことで自信が付き、海外就職への思いが募る。
- 30歳 ホテルインターンシップに応募。クアラルンプールの「ノホテルホテル」で、フロント業務と日本人ゲストサービスを担当。正式採用を目標にがむしゃらに働く。
- 31歳 「パークロイヤル・サービススイツ」の社員として活躍する毎日。週に2日は「パークロイヤル・ホテル」でも働いている。



流暢な英語で対応する。インターン時代、「電話に出るのが恐かった」というのが嘘のようだ



フロント業務の同僚たちと。「マレー語を覚えることで、同僚とのコミュニケーションがより深く楽しくできるので、簡単な自己紹介や単語は話せるようになりました」



「PARKROYAL Serviced Suites Kuala Lumpur」は、市中心地区にあるサービスアパートメント。質の高いサービスと利便性から日系大手企業も多く利用している



日本人ゲストに観光情報を提供するために作ったファイル。打田さんが実際に行って確かめたクアラルンプールの生きた情報が取られている



7年前から書き続けている日記帳。日々の反省点や目標を忘れないように書き留める。「この日記はホテルマンを辞めるまで続けていきたい」

小さい頃から周囲がハッピーになるのがうれしかった。ホテルマンを目指したのも、「人を幸せにすることが好きだったからだ」と打田さんは語る。だからホテルゲストから届いたお礼のメールや手紙は、貴重な宝物。今でも肌身離さず大切に保管しているという。

「将来の夢ですか? いつか帰国したら熱い志を持ったかつての同期と同じホテルで働けたらと思っています。それから、私を見て、ホテルマンになりたい、と子どもたちが憧れてくれるようなホテルマンになることでしょうか。」

「例えは、お客様がスコールにあつてびしょ濡れでお戻りになられたとき、そっとタオルを差し出す。あるいは炎天下の中お帰りになられたところに、冷たいおしぼりと飲み物をお持ちする。自分がされてうれしいことを積極的に実践していきます。」

子どもたちが憧れるホテルマンになりたい

「正直、不安はありませんでした。クアラルンプールのことは何も知りませんでしたし、言葉も日本人のお客さま担当とはいえ、同僚とのコミュニケーションや会議、電話など英語が主流。最初は電話に出るのがさえ恐かったです。」

きめ細やかなサービスを提供する一方で、休日には観光スポットを訪れ、お客様のために自分の足で情報を集めた。そんな彼の働きぶりを評価した職場の上司が、インターン終了後にパークロイヤル・サービススイツを紹介、打田さんは念願の正式採用を勝ち取った。

「名刀って、実際に切つてその切れ味を見なければわからないじゃないですか。私の場合、サービスという刀(おもてなしの心)を日本から持ってきて、振つたら、海外でも認められたんです。」

「一刀切つて、実際に切つてその切れ味を見なければわからないじゃないですか。私の場合、サービスという刀(おもてなしの心)を日本から持ってきて、振つたら、海外でも認められたんです。」

Working in Malaysia  
打田直史さん(31歳)  
Naofumi Uchida  
ホテルインターン  
↓  
サービスアパートメント

「おもてなしの心」が  
評価され、インターンから  
正式採用されました!

取材・文・撮影/マレーシア日本語無料月刊誌「セニョーム」編集部  
text & photo: Senyum Japanese Magazine in Malaysia

